

鏡石「牧場の朝」オランダ・秋祭り

鏡石牧場の朝秋祭り実行委員会（小林勇雄実行委員長）では、10月1日(土)鏡石駅前において、鏡石「牧場の朝」オランダ・秋祭りを開催します。

今回も、音楽の絆、スポーツの絆、オランダとの絆をコンセプトに開催されます。特に今年は「創」をテーマに、祭りの参加者全員で、鏡石町の地域ブランドに磨きを掛け、地域をつくり上げることで、地方創生に向けた「オンリーワン」の祭りとするを目的に開催されます。

今年の歌謡ショーのメインは、第56回日本レコード大賞企画賞受賞の岩本公水さんです。

また、毎年恒例の祭礼神輿、スポーツ・レクリエーション「かがみんぴっく」など盛りだくさんの内容となっております。皆さん、ご家族、ご友人お誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください。

○予定出演団体等

- あやめフローレンス
- よさこい演舞（鏡石保育所、鏡石幼稚園、鏡石中学校、鏡踊爛會）
- 鏡石一小鼓笛（5～6年生）
- 鏡石二小鼓笛（1～6年生）
- 鏡石中吹奏楽部
- オランダ大道芸人
- 岩本公水（演歌歌手）ほか
- ※当日の都合等により、変更になる場合があります。



●問い合わせ先 鏡石牧場の朝秋祭り実行委員会事務局（産業課） ☎ 62-2118

田んぼアート情報

2016 かがみいし田んぼアートの観覧者が8月4日(木)に1万人を突破しました。記念すべき1万人目の観覧者となった安田庸義さん・佳代子さん夫婦（郡山市在住）には、実行委員長の遠藤町長から町特産の桃「あかつき」と特別純米酒「鏡の雫」が贈呈されました。

庸義さんは「鏡石町の田んぼアートは毎年観に来ています。この時期にしか観られないという点も、風情があって素晴らしいと思います。また秋の、色が変わる頃に観に来たいと思います。」と話していました。



記念品を受け取る安田さん夫婦

観覧者数の推移

昨年の観覧者数は20,924人でした。今年は何人になるのか楽しみです。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
H28	2,619人	6,748人	6,117人	???人	???人	???人	???人
H27	3,748人	5,289人	5,774人	4,605人	1,467人	41人	20,924人

※ H28. 8月は25日時点

※ H27.11月は4日まで

●問い合わせ先 産業課 ☎ 62-2118

第18回

少年の主張鏡石町大会

8月6日(土)町図書館で第18回少年の主張鏡石町大会が開催され、小学生10人、中学生6人が出場し、日頃感じたことや考えていることなどを発表しました。最優秀賞は、小学生の部が金子桜さん（一小6年）、中学生の部が阿部望花さん（鏡石中3年）の2人が受賞しました。また、圓谷純一郎くん（二小5年）、菊地真央さん（一小6年）、姫路涼花さん（鏡石中2年）、森尾日向子さん（鏡石中3年）の4人が優秀賞を受賞しました。中学校の上位3人は、県大会に推薦されます。最優秀賞を受賞したお2人の作品を今月と来月に分けてご紹介します。



「挨拶」の大切さ

阿部 望花

「おはようございます。」私の一日は、この言葉からスタートします。それは、家族に対しても、全校生徒に対しても等しく行われる朝の1課のようなものです。

特に学校では、生徒会役員として、毎朝、昇降口に立ち、登校してくる同級生や下級生にあいさつをしています。「おはようございます。」「おはようございます。」私たちが以上に、大きな声で返してくれる人や、私たちの目を見てあいさつしてくれる人がいると、「今日は良い日になりそうだな。」と感じます。そし



「挨拶」の意味について話す阿部さん

て、そんなあいさつを返してくれる人たちも、私と同じく、気持ちよく一日をスタートできるのではないかと思います。逆に、聞こえないくらい小さいあいさつや、軽いお辞儀だけをする人、あるいは先生方だけにしか返す人、そして中には、全くあいさつを返してくれない人もいます。私はその度にチクリと胸が痛みます。悲しい気持ちになります。

あいさつの大切さに気づいたのは、朝のあいさつ運動だけではありません。

私が、ソフトボール部に所属した一年生の六月…。当時二年生の先輩は一人もおらず、頼り切っていた三年生も引退して、いよいよ一年生だけで部活動をしていかなければならなくなったとき、部長の私は不安な思いでいっぱいでした。そんな私たちに、当時の顧問の先生が「あいさつ」に込められた意味を教えてくださいました。「あいさつ」は、漢字で書くと「挨拶」ですが、「挨拶」には「心を開く」という意味があり、「挨拶」には「相手に迫る」と

いう意味があるそうです。先生は、「『挨拶』をするときには、相手に対して、素の自分のまま、真つ直ぐな気持ちでぶつつかってほしい。」と教えてくださいました。そしてこの日から、「ソフト部をあいさつナンバー1の部活にする」ことが、部員全員の目標になりました。私も、明るく元気のよいあいさつを、自分の方から行うようになりました。

その結果、練習試合の際、他校の先生方から、「鏡中のソフト部はあいさつが素晴らしいね。」と褒められるようになりました。学校改修に伴う引っ越しの際にも、「ソフト部はあいさつが良いから。」という理由で、先生方からいろいろな仕事を頼まれました。私はとてもうれしいことだと感じました。なぜなら、信頼されているからこそ、仕事を任せてもらえるからです。その信頼の元となったのは、「挨拶」にちがいない。だから私は、先輩たちにも「挨拶の大切さ」を伝えました。私たちが引退した後、次の代、またその次の代に、「挨拶の大切さ」を

伝えていってほしいです。また、「あいさつ」に関して、よく耳にする言葉があります。それは、「あいさつは身を守る」という言葉です。日頃から、誰に対してもあいさつをしていけば、自分が困難に直面したとき、周りの人が助けてくれるというのです。これも、あいさつによって、信頼感が生まれるからだと思います。

逆に「あいさつ」ができないと、「ああ、この人はあいさつもできない人なんだ。」と、悪い印象を持たれます。あいさつは、礼儀の基本であり、社会の中で生きていく上で、とても大切なものだからです。

「おはようございます。」「こんにちは。」「よろしくお願ひします。」「ありがとうございます。」と「さようなら。」心を込めた「挨拶」は、他の人を良い気持ちにさせ、信頼感をも生み出します。だから私は、これからは自分から進んで、元気のよい挨拶をしていこうと思います。挨拶の大切さを教えてくださいました先生の教えを忘れることなく、守っていきます。